

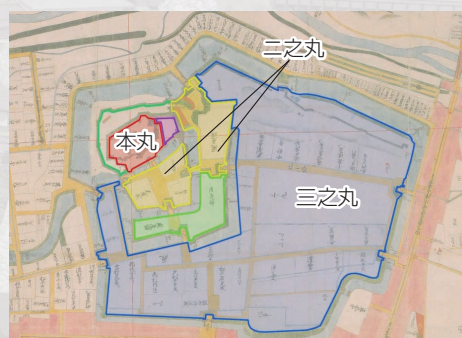
# 小峰城もよほ話

第九話  
小峰城の縄張り

城は、縄張り（地形の利用の仕方や郭（曲輪）と呼ばれる区画などの配置方法）で、分類することが出来ます。

地形による分類には、山を利用した「山城」、小高い丘と周囲の平地を取り込む「平山城」、平地の「平城」があります。

また、郭による分類は、①郭が連なっており並ぶ「連郭式」、②本丸の外を二之丸で、さらに二之丸の外を三之丸で囲う「輪郭式」、③本丸を隅に配置し、二辺または三辺を覆うように配置された郭が、はしご状に連なる「梯郭式（梯はしごの意味）」などがあります。



▲小峰城の縄張り

では、小峰城の縄張りについて、文化5年（1808）に作られた絵図（右図）を参考にしてみましよう。

本丸は、小高い丘の上に配置され、御殿や三重櫓など、藩の中心となる施設が置かれました。本丸の外側には、二之丸が配置され、公的に使用される屋敷や蔵などが置かれました。さらにその外側に三之丸が配置され、重臣の屋敷や、藩主の住まいとなる御殿や庭園も作られました。小峰城は、丘陵と裾部の平地を利用し、郭がはしご状に配置された「梯郭式平山城」に分類され、丘陵や河川など、自然地形を上手に利用して築かれています。

文化財課 ☎ 2310

## 白河、あの頃と今

今月のテーマ「白河駅」

Vol. 4



市内の様子や行事などを写した古写真の中から、テーマに沿った1枚を紹介し、現在の様子と比較します。タイムスリップ気分を味わいながら、白河の魅力を再発見しませんか？ 本庁舎秘書広報課 内2171



【昭和中期の様子】

大正時代に建築された白河駅。幾何学模様の装飾やステンドグラスなど、洋風の建築様式が採用されました。以来、現代まで約100年に渡り「みちのく白河の玄関口」としての役目を担っています。



【現在の様子】

時が流れ変化するものが多いなか、白河駅は変わらぬ姿を維持することで、その魅力が一層増しています。最近ではテレビCMの舞台として登場するなど、大正ロマン漂う駅舎として注目度が上がっています。